菊池管内のお母さん、お父さん、
菊池の小中学生を危険な『罠』から守りましょう

菊池教育事務所長　中島　綱紀

「中学生にスマホを持たせるのはまだ早い。」
「ほとんどの子が持っているのが現実。うちの子だけに持たせない理由がない。」
「盗み見したら、知らない人とやりとりしていた。」
「子どもが勝手にロックしていてのぞけない。何しているのか。」
「持たせてるけど、フィルター機能をつけているからうちは大丈夫。」

これは、ある中学校の保護者会での会話です。このように、親御さんの考え、思い、不安は様々です。

楽しいコミュニケーションのツールとして、家族でスマホが活用されているのなら大歓迎です。しかし、スマホの世界には想像以上のとてつもない罠が子どもたちを誘っています。

罠１	気軽な思いで投稿した写真から、住所や通っている学校名などの個人情報を読み取られて、ストーカー行為を繰り返された。
罠２	優しい友人になりすまして接近してきた。信頼していろんな相談をしていたら下着姿や裸の写真を求めてきた。不安になっても大人に相談できない状況に追い込まれて、さらに脅されてもっと危険な要求をしてきた。
罠３	勝手に送られてきた『情報』をみていたら、わいせつなＨＰにつながった。すぐに消したけど、「閲覧したので一万円を払うよう、払わないと裁判所に訴える。」というメールが何度も送られてきた。
罠４	同じ趣味を持った人たちでつくった仲間で「今度会いましょう。」となった。休日に参加したら、怖い大人の人たちばかりで、無理やり車に乗せられて・・・。

お母さん、お父さん、私たち大人には理解できない世界が、子どもたちのスマホの中で広がっています。それは子どもたちの将来さえも脅かす『罠』です。

「『罠』にかからないよう、子どもさんに携帯・スマホを買い与えないでください。」と言いたい。しかし、それでも買い与えられるのなら、親としての責任を自覚してください。「絶対に我が子を守る。トラブルがあったら、親子で真剣に向かい合って解決する。いじめも親同士で話し合って解決する。」「難しい場合は警察に相談する。」という強い覚悟を持ってください。それが親です。

学校もこのことには真剣に取り組みます。トラブルの解決には親さんに協力します。アドバイスもできます。トラブル解決後の子どもの人間関係づくりも学校でやります。未然防止のために情報モラル教育を徹底してやります。だから、“本気”で子どもさんと向かい合って携帯・スマホの使い方について話し合ってください。親の覚悟をしっかり伝えてください。

